

信州木島平 樽滝ボルダー

令和6年7月6日 RCT/K

梅雨に入り外では快適に登れる状況ではなかったため、晴れ間を見て、カヤノ平方面へ行く時には必ず通る樽滝上の左岸の側壁をボルダーとして遊べるか確かめに行った。

お堂への橋を渡り川に降りてみると、対岸の道路から見た苔とブッシュの汚れた壁の感じとは少々違い、被りはないが激流に磨かれた柱状節理的なカンテとスラブ状フェイスで構成された面白そうな壁が連なっていた。

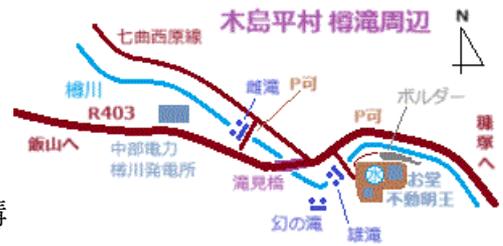
その後、掃除とトライを兼ねて何回か訪れるが、上からロープを垂らして一通り苔を落としてみると意外と使えるホールドがあり、ムーヴもそこそこあって楽しく遊ぶことができた。梅雨時であったが、岩は雨後でも少しばかり晴れ間が続けば乾きは早い。

アクセスは長野県木島平村の樽滝を目指して行けば迷うことはなく、駐車スペースもあり特に大きな問題はない。強いて言えばボルダー対岸の道路のふくらみは上部から落石の可能性があり、気になる場合は下流にある旧道の橋入口に2台ほど駐車可能である。

アプローチは問題なく、お堂への橋を渡り、フェンスと橋の隙間から川に降りる。

お堂の敷地は休憩舎や湧き水を引いてきた水道があり木陰で涼しく快適だがトイレはない。

注意点としては、雨後の増水時には登れないことがある。また晴れていても時々上流の発電所の取水ダムから放水があるため、危険というほどではないが増水することがある。



《課題紹介》

- 白ラインは、石碑状ピナクルとの隙間のクラックに右手をジャミングしてスタート。左の凹角は使わず直上しマントリングでレッジに上がる。
- 黄色ラインは、白ラインとスタートホールドは同じで、左の小凹角の穴状ホールドも使いシンクラック付近を登る。
- オレンジラインは、右手小凹角の穴状ホールドでスタート。フェイス上の小ホールドをとり、右のレッジを使わずに直上。
- 紫ラインは、オレンジラインから左へ小カチを繋ぎトラヴァースして青ラインに合流する。
- 赤ラインは、上部で3ラインに分かれる。



スタート出だし上の小カチが遠く身長がないと身体が伸び切ってしまう引き付けがきつい。リーチ差にもよるが、165cm未満の人は届かない可能性があり、跳びつきになるのでさらに厳しくなる。逆に身長のある人にとっては有利。

左抜けライン(a)は、足を小さなフットホールドに上げたら、左上に小カチを繋いで、最後は青ラインに合流して抜ける。

直上ライン(b)は、左右に逃げずほぼ直上する。右寄りの小カチから最後の左手は左上のパーミング気味のホールド。

右抜けライン(c)は、小カチを繋いで最後はオレンジラインに合流して抜ける。

- 水色ラインは、左手は小カンテ、右手は皺状ホールドでスタート。足は左に出しても良いが、手は小カンテより左には出さない。
- 上流側端の黄緑ラインは、易しいがフォール時川に落ちる可能性があるので落ちられない。